



S.Setoguchi

THE CHUNICHI SHIMBUN HAI

第60回 中日新聞杯 (GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 43,000,000円 17,000,000円 11,000,000円 6,500,000円 4,300,000円
付加賞 637,000円 182,000円 91,000円



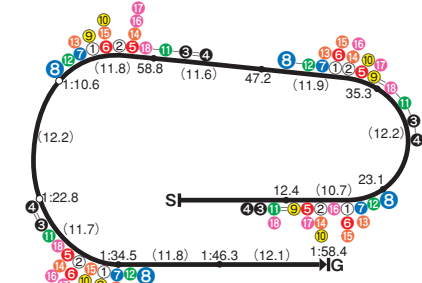
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、2023.12.9以降2024.12.1まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 ハンデキャップ

2024.12.7 中京 曇・良 芝2000m (国産) (特例)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑧	デシエルト	牡 5	58	岩田康誠	1:58.4	1-1-1-1	35.6	532(+4)	5.2③	安田翔伍(栗東)	113
2	⑩	ロードデルレイ	牡 4	57.5	西村淳也	2	9-11-7-7	35.1	486(±0)	3.7①	中内充正(栗東)	108
3	②	マテンロウレオ	牡 5	58.5	横山典弘	アタマ	9-8-10-9	35.0	482(+4)	14.2⑥	昆 貢(栗東)	110
4	⑤	トーセンリョウ	牡 5	55	国野大成	アタマ	12-11-11-12	34.8	462(+2)	12.8⑤	加藤征弘(美浦)	103
5	③	キングズパレス	牡 5	57.5	M.デムーロ	1/4	17-17-17-17	34.3	502(+2)	6.5④	戸田博文(美浦)	
6	⑨	コスモキュランダ	牡 3	58	横山武史	1/4	14-13-5-5	35.6	504(-8)	4.5②	加藤士津八(美浦)	
7	⑥	クルゼイロドルス	牡 4	57	H.ドイル	1/4	8-8-11-12	35.4	500(+12)	54.8⑫	高橋義忠(栗東)	
8	⑪	ジェイバームス	騾 4	56	鮫島克駿	クビ	5-5-7-7	35.8	502(-6)	23.6⑧	堀 宣行(美浦)	
9	⑨	エヒト	牡 7	59	浜中 俊	1/4	2-2-2-2	36.7	474(-)	28.7⑨	森 秀行(栗東)	
10	④	ドクタードリトル	牡 4	56	松山弘平	クビ	9-8-11-12	35.7	462(+2)	18.8⑦	今野賢一(栗東)	
11	⑦	マコトヴェリーキー	牡 4	55	岩田望来	1	12-13-11-9	36.0	480(-4)	33.9⑩	上村洋行(栗東)	
12	⑫	フライライクバード	騾 7	57	小崎綾也	ハナ	3-3-3-3	36.6	458(+2)	38.4⑪	福永祐一(栗東)	
13	⑪	マイネルメモリー	牡 4	55	丹内祐次	ハナ	15-16-16-16	35.4	468(+2)	48.0⑫	宮 徹(栗東)	
14	⑥	エリカヴァレリア	牝 6	53	池添謙一	1/4	5-5-7-9	36.2	476(+4)	102.7⑬	久保田貴士(美浦)	
15	①	ベリーヴィーナス	牝 5	53	藤懸貴志	2	5-5-5-5	36.9	510(+14)	84.8⑭	鈴木孝志(栗東)	
16	⑧	アドマイヤハレー	牡 6	55	田辺裕信	クビ	15-15-15-15	36.4	466(-2)	77.4⑮	宮田敬介(美浦)	
17	⑦	タマモブラックタイ	牡 4	55	角田大和	3/4	3-3-3-3	37.9	522(+4)	207.7⑯	角田晃一(栗東)	
18	④	アスクワイルドモア	牡 5	54	西塚光二	3	18-18-18-18	36.0	486(+10)	249.3⑰	藤原英昭(栗東)	

単勝⑤520円(3[△]△) 複勝②250円(4[△]△) ⑩160円(1[△]△) ②380円(6[△]△) 枠連④-⑤930円(3[△]△)
馬連⑧-⑩1,240円(3[△]△) ワイド⑧-⑩570円(3[△]△) ②-⑧1,520円(15[△]△) ②-⑩1,190円(12[△]△)
馬単⑧-⑩2,280円(5[△]△) 3連複②-⑧-⑩6,060円(13[△]△) 3連単⑧-⑩-②26,990円(51[△]△)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
35.3 - 47.2 - 58.8 47.8 - 35.6

アラカルト

- ・岩田康誠騎手はショウナンパルディで制した21年に続く中日新聞杯2勝目。JRA重賞は24年4勝目、通算113勝目
- ・安田翔伍調教師は中日新聞杯初勝利。JRA重賞は24年5勝目、通算12勝目
- ・ドレフォン産駒はJRA重賞通算4勝目
- ・5歳馬の勝利は21年ショウナンパルディに続く通算16回目
- ・デシエルトの馬体重532[△]は本競走優勝馬の最高馬体重記録
- ・キングズパレスの松岡正海騎手は第5競走での負傷のためM.デムーロ騎手に変更
- ・非抽選馬 5頭(グランスラムアスク、セファラジエル、バラジ、プラチナトレジャー、ペラジオソノダラフ)

デシエルト *Desierto*

牡 黒鹿毛 2019.1.17生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・榊ラ・メール 栗東・安田翔伍厩舎
馬名意味・チリのオブジェ、モデルデシエルトより

ドレフォンUSA Drefong 鹿毛 2013	Gio Ponti 鹿毛 2005	Tale of the Cat Chipeta Springs
	Eltimaas 鹿毛 2007	Ghostzapper Najecam
アドマイヤセプター 栗毛 2008	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	アドマイヤグルーヴ 鹿毛 2000	サンデーサイレンスUSA エアグルーヴ

5代までのインブリード：Mr.Prospector M4×S5 Raise a Native S5×M5

INTERVIEW

伊藤隆行 厩舎長（ノーザンファーム早来）

速さと強さを証明したレースでした

芝やダートといった条件を問わず、この馬の前進氣勢が溢れた走りを見せてくれています。初めて跨った頃からエアグルーヴの牝系特有と言えるストライドの大きさが感じられました。ダートでも頭角を現した矢先の骨折となりましたが、関係者が一丸となって復帰させたことが、この結果に繋がったと思います。速さと強さを証明したレースでした。

S.Suzuki



五分のスタートを切った岩田康誠騎手は手綱を押して先手を主張、スピードに乗ったデシエルトが1コーナードに

をひと叩きされた4歳馬ロードデレイと、菊花賞14着からの巻き返しを期す3歳馬コスモキュランダが1、2番人気の支持を集めたが、勝利を飾ったのは3番人気の5歳馬デシエルト。上昇気流に乗った良血の高馬が重賞初制覇を果たした。

一方、馬を無理に抑えず、中盤に11秒台のラップを連発した岩田騎手は3コーナードでひと息つく、4コーナードから再び加速。坂を駆け上がって好位勢を突き放し、「セーフティ」と映るリードを開く。追い上げに脚を使った格好のコスモキュランダは伸び切れず、その外へ持ち出されて追い込んだロードデレイも、横一線の争いを制して2着を確保するのが精一杯。これを尻目にデシエルトが、一人旅のゴールを悠々と駆け抜けた。

ドレフォンの初年度産駒にしてアドマイヤグルーヴの孫にあたる本馬は、19年のセレクトセール当歳市場において2億5000万円（税込）で落札された経歴を持つ。2歳暮れの初陣から若葉Sにかけて無傷の3連勝を飾り、皐月賞（16着）、ダービー（15着）にも参戦。3歳秋以降はしばらくダート戦に使われたものの、久しぶりに芝へ矛先を向けたアンドロメダSを鮮やかに逃げ切り、余勢を駆って臨んだ重賞で初の勲章を手中に収めた。後続に脚を使わせる逃げに開眼して迎える6歳のシーズンには、さらに大きな舞台での活躍が見込めそうだ。

父ドレフォンUSA

北米9戦6勝（BCスプリント^{G1}、キングズビショップS^{G1}、フォアゴース^{G1}）、米チャンピオンズプリンター、18年から供用
〔代表産駒〕**ジોકリフ**（皐月賞^{G1}、札幌2歳S^{Gm}）、**アンデスビエント**（関東オークスJ^hⅡ）、**ミッキーファイト**（レパードS^{Gm}、ジャパンダートクラシックJ^hⅠ2着）、**デシエルト**（本馬）、**ウォーターリヒト**（キャピタルS・L、きさらぎ賞^{Gm}2着）、**コンシリエール**（オアシスS・L、カトリアS^{Gp}、兵庫チャンピオンシップJ^hⅡ3着、サウジダービー・沙^{G3}3着）、**テオードレフォン**（福島民友C・L、エルムS^{Gm}3着）、**サーマルウインド**（信越S・L）、**ワープスピード**（メルボルンC・豪^{G1}2着、阪神大賞典^{Gm}2着）、**タイセイドレフォン**（レパードS^{Gm}2着）、**マスコオールウィン**（フェアリーS^{Gm}2着）、**ヒストリックノヴァ**（エーデルワイス賞J^hⅢ2着）、**カワキタレプリー**（NHKマイルC^{G1}3着）、**フロインフォッサル**（羽田盃J^hⅠ3着）、**コンティノアール**（UAEダービー・首^{G2}3着）

母アドマイヤセプター

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央27戦5勝（白秋S、札幌スポニチ賞、アプローズ賞、十勝岳特別、京阪杯^{Gm}2着、スワンS^{Gm}3着、フェアリーS^{Gm}3着、札幌2歳S^{Gm}3着）

ラディアントバレス（16 牝父ハービンジャーGB）中央3戦0勝

スカイグルーヴ（17 牝父エピファネイア）中央14戦2勝（白秋S、京王杯スプリングC^{Gm}2着、京都牝馬S^{Gm}2着、京成杯^{Gm}2着）

レガトゥス（18 牝父モーリス）中央19戦4勝（秋色S、クロッカスS・L2着）**㊤**

デシエルト 本馬（19 牝父ドレフォンUSA）中央14戦6勝（中日新聞杯^{Gm}、アンドロメダS・L、グリーンチャンネルC・L、若葉S・L、三宮S^{Gp}3着）獲得総賞金143,767,000円

リベライバレス（20 牝父エピファネイア）中央2戦1勝

コンテネレッツァ（21 牝父エピファネイア）中央5戦2勝 **㊤**

グロスビーク（22 牝父シスキンUSA）中央3戦0勝 **㊤**

アクアアイ（23 牝父ドレフォンUSA）

（24 牝父アドマイヤマーズ）

祖母アドマイヤグルーヴ

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央8勝（エリザベス女王杯^{G1}2回、阪神牝馬S^{Gm}、ローズS^{Gm}、マーメイドS^{Gm}、若葉S^{Gp}、秋華賞^{G1}2着、桜花賞^{G1}3着、天皇賞（秋）^{G1}3着、エリザベス女王杯^{G1}3着）、最優秀4歳以上牝馬、12年死亡、**ドラメンテ**（日本ダービー^{G1}、皐月賞^{G1}、中山記念^{Gm}、宝塚記念^{G1}2着、ドバイシーマクラシック・首^{G1}2着、日本リーディングサイヤー）の母

良血の高馬が待望の重賞初制覇

12月に移設された2017年以降の7年間、中日新聞杯では4歳馬が最多の4勝を記録しており、2勝の3歳馬がこれに続く。24年のレースも、6月の鳴尾記念を競走除外になった後、態勢を立て直してアンドロメダS（2着）をひと叩きされた4歳馬ロードデレイと、菊花賞14着からの巻き返しを期す3歳馬コスモキュランダが1、2番人気の支持を集めたが、勝利を飾ったのは3番人気の5歳馬デシエルト。上昇気流に乗った良血の高馬が重賞初制覇を果たした。

主導権を握る。その後もペースは緩まず、馬群の隊列が縦に延びていくなか、ロードデレイは先頭から10馬身余り離れた中国を追走。その直後につけたコスモキュランダは向正面半ばから進出を開始し、前に迫っていた。

一方、馬を無理に抑えず、中盤に11秒台のラップを連発した岩田騎手は3コーナードでひと息つく、4コーナードから再び加速。坂を駆け上がって好位勢を突き放し、「セーフティ」と映るリードを開く。追い上げに脚を使った格好のコスモキュランダは伸び切れず、その外へ持ち出されて追い込んだロードデレイも、横一線の争いを制して2着を確保するのが精一杯。これを尻目にデシエルトが、一人旅のゴールを悠々と駆け抜けた。

ドレフォンの初年度産駒にしてアドマイヤグルーヴの孫にあたる本馬は、19年のセレクトセール当歳市場において2億5000万円（税込）で落札された経歴を持つ。2歳暮れの初陣から若葉Sにかけて無傷の3連勝を飾り、皐月賞（16着）、ダービー（15着）にも参戦。3歳秋以降はしばらくダート戦に使われたものの、久しぶりに芝へ矛先を向けたアンドロメダSを鮮やかに逃げ切り、余勢を駆って臨んだ重賞で初の勲章を手中に収めた。後続に脚を使わせる逃げに開眼して迎える6歳のシーズンには、さらに大きな舞台での活躍が見込めそうだ。